

# 子どもの霰粒腫に対するマイボーム腺温存療法

福岡 詩麻<sup>1,2</sup>, 有田 玲子<sup>2,3</sup>

<sup>1)</sup>大宮はまだ眼科西口分院, <sup>2)</sup>LIME研究会, <sup>3)</sup>伊藤医院

【目的】低年齢の子どもの霰粒腫手術は無麻酔もしくは全身麻酔下となる場合がある。最近、マイボーム腺の形態と機能を温存するという観点から、霰粒腫の「切らない」治療が見直されている。今回、霰粒腫に対するマイボーム腺温存療法を行った子どもの経過を調べた。

【対象と方法】対象は2020年8月～2023年7月に大宮はまだ眼科西口分院初診の霰粒腫患者295例のうち高校生以下の症例。診療記録をレトロスペクティブに解析した。

【結果】78例(男児31例、女児47例、年齢 $5.3 \pm 4.3$ 歳(4ヶ月～18歳))。うち64%が5歳以下だった。霰粒腫発症後0日～1年(中央値12日)で受診。28例にもものらい既往、2例に霰粒腫手術歴があった。初診時、霰粒腫を $1.1 \pm 0.4$ 眼瞼に $1.2 \pm 0.5$ 個(1～4個)認めた。19例で多発、26例で自壊した。検査可能な4例全例で霰粒腫の部位のマイボーム腺に短縮脱落、9例中1例に角膜上皮障害を認めた。温罨法57例、眼瞼清拭59例、抗菌薬・ステロイドの点眼・軟膏61例、ステロイド注射1例に施行した。1例が当院、3例が他院で手術を受けた。28例が受診が1回のみだった。平均観察期間 $5.5 \pm 7.6$ ケ月中、17例で新たな部位に霰粒腫を発症、3例で同部位に再発を認めた。複数回通院した症例の初診時の霰粒腫の88%、多発再発霰粒腫の71%が「切らない」治療で治癒・軽快した。

【結論】多発霰粒腫や再発を繰り返す症例は多いので、子どもの霰粒腫に対してもマイボーム温存療法は有用であると考えられた。

---

【利益相反公表基準】該当有

【倫理審査】承認有

【IC】取得有